

令和5年度(令和4年度実施事業分)主要事業評価シート					No.	6-3	
PDCA	主要事業名	平和運動推進事業	部課名	総務部総務課	担当	木原	
					内線	246	
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 5 - 3 - 1 単位施策： 行政運営 全体事業期間： 令和 4 年度 ～ 4 年度 全体事業費等： 854 千円 会計 一般会計 歳出科目 02.01. 12. 20. 01					目標項目（予算計上時に作成）	
	事業概要等	事業概要： 本市は、昭和33年の議会決議及び平成5年の非核平和都市宣言等を 礎に平和事業を推進しており、恒久平和に寄与するための平和運動推進 事業を実施する。					
		事業目的： 恒久平和に寄与するため、次世代を担う小中学生を中心に各事業への参加を呼び かけ、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えていく。					
		事業内容： 半田の戦争遺跡見学会、平和懇談会（出前講座）、平和ポスターコンクール等。					
		問題点・課題等： 平和といった概念について、啓発活動や事業活動を通じての定量的な評価 は難しいが、事業対象者数の維持、あるいは増加をはかっていく。					
	予算額	主要事業とする理由					
	854 千円	市制施行81年を経る中で、他自治体に先がけて、議会決議や非核宣言等平和運動推進への 姿勢を示してきている経緯もふまえ、継続的に市として取り組むべき事業のため。					
	財源内訳	得られる成果					
	市費	戦争を未体験の世代や次世代を担う子どもたちに、平和の尊さを伝えていくことで、恒久 平和に向けた意識が醸成される。					
	837 千円	目標値や目指すべき状態					
国費	各種事業の実施を通じて、戦争の悲惨さや平和の尊さへの意識が高まる市民が増加す る。						
0 千円							
県費							
0 千円							
その他							
17 千円							
D 実績 得られた成果と	決算額	得られた成果				主要施策の成果報告書で活用	
	806 千円	戦争を未体験の世代や次世代を担う子どもたちに、平和の尊さを伝えていくことで、恒久 平和に向けた意識の醸成に寄与できた。					
		成果指標					
		各種事業の実施を通じて、戦争の悲惨さや平和の尊さへの意識が高まる市民が増加す る。					
C 課題の整理	事業の評価・課題	C 出前講座等は、新型コロナウイルス感染症の影響下で実施回数の減少は避けられないが、着実 に実施した。半田の戦争の記録の概要版となる「はんだにもあった戦争」リーフレットを製本し、窓 口や出前講座、戦争遺跡見学会で配布し、より身近に感じてもらえるよう活用した。					
	今後の事業の方向性	改善推進 他自治体の同種事業と同様に、戦争体験者の高齢化により、直接伝承していく機会の確保は今後難しく なっていく。 出前講座映像の撮影活用等、資料の保管や活用の仕方を含めて、現在、講師を依頼している「半田空 襲と戦争を記録する会」と協議していく。 また、半田市内の数多くある戦争遺跡をまとめ、ホームページで公開する等、情報発信の仕方に工夫し、 意識向上につなげていく。					
A 課題の解決方向性に向けた	観点別評価	必要性		有効性		効率性	
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	—	⑦コスト削減余地	ない
		②市民ニーズ	低い	⑤成果向上の余地	ある	⑧受益者負担適正化余地	ない
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない		